

『特攻 空母バンカーヒルと二人のカミカゼ』 主要登場人物一覧

日米とも姓の五十音順

ヘンリー・“ハップ”・アーノルド	陸軍航空隊司令官。
E・V・アンドロソ	リチャード・ブラザーズ少尉操縦のアベンジャー搭乗員。1945年2月15日の東京空襲時に撃墜され戦死。
ブレイン・イメル	VMF-221所属のコルセアパイロット。待機室にいるときに特攻機の攻撃を受け、海に飛び降り、駆逐艦に救助される。
ジャック・ヴァインセック	アベンジャー後部銃手。
フィル・ウェインライト	アベンジャーパイロット。待機室で死亡。
クリント・“マウス”・ウェブスター	アベンジャーパイロット。
ジム・ウォーカー	20ミリ機銃員。
マーティン・ウォル	アベンジャーパイロット。湿疹の薬をもらうために医務室に向かう途中で特攻攻撃を受ける。
アート・ヴォルケーマ	バンカーヒルの通信員。炎上するバンカーヒルを飛行甲板から撮影した有名な写真に、耳まである大きなヘルメットを抑えている彼の姿が写っている。
ディック・ウォルシュ	アベンジャーパイロット。
ウィリアム・A・“スタンプ”・エドワーズ	アベンジャーパイロット。
ジョージ・オッティンガー	第84航空団指揮官。
ブッチ・オヘア	空母レキシントンのヘルキャットパイロット。わずか5分で日本軍機5機を撃墜し、アメリカ初の撃墜王となる。
ウォレス・ガーツ	ミッチャー付きの信号手。
フリップ・ガーナー	飛行甲板のコルセアに搭乗しているときに安則機の突入を受け、左翼を破壊される。
ジョセフ・カーマイケル少佐	バンカーヒル機関長。
ジョー・ギルブエナ	ミッチャーの給仕。
アーネスト・キング	合衆国艦隊司令長官。
シェーン・ヘイスティングズ・キング中佐	バンカーヒル内務長。
パトリック・キング	機関区の通信員。
メルヴィン・フランシス・“ガッツ”・グッテンバーグ	アベンジャーパイロット。沖縄特攻時の戦艦大和を雷撃。
エドワード・クリスチャン	木工員。
ラルフ・グレンデニング	コルセアパイロット。
ビル・ゲリティ	ターンブル操縦のアベンジャーの銃手。トラック島空襲時に戦死。
ジョージ・ゲルダーマン	アベンジャーの無線員。
ケイレブ・ケンドール	VF-84所属のコルセアパイロット。ハーバード大学出身。
ラルフ・J・“コーク”・ココノーファー	コルセアパイロット。ケンドールの友人。
ジョン・サージェント少尉	コルセアパイロット。撃墜王。小川の爆弾の爆発で即死。
ジョージ・A・サイツ大佐	バンカーヒル艦長。
ジミー・サッチ少佐	零戦への対抗手段サッチ・ウィーブを考案。その後本国でパイロット育成に携わる。
テッド・シャーマン少将	第58・3任務群指揮官。
アル・シュカカン	航空機整備員。
ポール・シュレーダー	バンカーヒルの軍医。
チャールズ・シュワブ	多数の艦船を建造したベスレヘム・スチール社社長。
ロバート・ショック	バンカーヒル艦上で小川の遺品を回収。自宅に保管。
ジョン・ジョンストン	航空機整備員。安則の爆弾の爆発で格納庫で死亡。
ジェームズ・スウェット	コルセアパイロットで撃墜王。VMF-221指揮官。
アル・スカーレット	内務科所属の被害対策将校。
ヘンリー・スティムソン	陸軍長官。
レイモンド・スプルーアンス中将	第5艦隊司令官。
ジム・スペンス	20ミリ機銃員。
W・ユージン・スミス	雑誌ライフのカメラマン。アベンジャーに同乗して東京空襲を撮影。
フランク・スラウィック	航空機整備員。
チャンドラー・スワンソン少佐	アベンジャーパイロット。第84雷撃隊指揮官。
ジョージ・ソーン	ボイラー員。
ウォルター・ソットウング	第1エンジン室主任。
アル・ターンブル	アベンジャーパイロット。VT-17時代からバンカーヒルに乗艦。
ハウエル・J・ダイソン中佐	バンカーヒル副長。
フレッド・ディーンズ	第4ボイラー室主任。
ディクソン少佐	コルセアパイロット。沖縄攻撃で戦死。
ロバート・ディクソン	空母レキシントンの雷撃機パイロット。空母祥鳳を雷撃、撃沈。
ロマ・デュソー	機付長。
アーチャー・ドナヒュー少佐	コルセアのエースパイロット。

ジョー・ニアリー	バンカーヒル艦載機パイロット。
スタンリー・ニカス	5インチ連装砲の砲員。
"ニック"・ニコライデス	VMF-221所属のパイロット。
ポール・ニツェ	アメリカ戦略爆撃調査団メンバー。外交官。
チェスター・ニミッツ	太平洋艦隊司令長官。
アーレイ・バーク	マーク・ミッチャー中将の参謀長。
ダックス・バーク	小川の遺品を持ち帰ったロバート・ショックの孫。遺品を小川の遺族に返還。
M・L・パークス	VMF-221所属のパイロット。新型ナパーム弾を搭載して発艦に失敗。死亡。
ジャック・パイス	ヘルキャットパイロット。
マイク・パウリールド	ギャラリーデッキで閉じこめられていたところをアル・ナドーに救出された。
W・L・パウリッセン	リチャード・ブラザーズ少尉操縦のアベンジャー搭乗員。1945年2月15日の東京空襲時に撃墜され戦死。
W・T・ハッチー等兵曹	バンカーヒル乗員。
ウィルトン・"フート"・ハット	VF-84所属のコルセアパイロット。
エディー・ハリス	20ミリ機銃員。
ロバート・アール・ハリス	砲術科所属。
ウィリアム・ハルゼー	第三艦隊司令長官。
ダグラス・バルフォー	格納庫の火災消火に尽力。
ジェリー・ハンソン	救急隊員。
ピストル・ピート	硫黄島戦で正確な砲撃で米軍を苦しめた日本軍砲兵につけられたニックネーム。
ハーバード・ファーガソン	暗号解読班の一員。
トニー・ファッコネ	飛行甲板前方から炎上するバンカーヒルの写真を撮影。
ルイス・フィーザー博士	ハーバード大学でナパーム弾を開発。
W・H・"リップス"・フカール	アベンジャーのパイロット (VT-84)
エレン・ブラウン	ケレイブ・ケンドールの妻。
ギルバート・フラウンハイム中佐	バンカーヒル飛行長。
リチャード・ブラザーズ少尉	アベンジャーパイロット。1945年2月15日の東京空襲時に撃墜され戦死。
フレッド・ブリッグズ	VMF-221所属のコルセアパイロット。桜花を撃墜した唯一のパイロット。哨戒飛行中、安則機がバンカーヒルに突入するのを目撃。
プール	駆逐艦カッシングの軍医。
フランク・ジャック・フレッチャー中将	ガダルカナルを巡る戦いで空母部隊を指揮。
ピート・プローボ	弾薬員。大男で250ポンド爆弾を1人で運び、12個も積み上げることができた。
ジョー・プロシア	コルセアパイロット。
J・ウェート・"スラボ"・ベーコン	バンカーヒルの雷撃隊 (VT-84) 情報将校。
ロジャー・ヘドリック少佐	VF-84指揮官。
ペトロフスキー大尉	被害対策将校。
ベレンスター	第1ボイラー室で最後まで機器の設定を行い、死亡。
ロバート・ポーター	軽巡ウィルクスバール艦長。
ウィルバート・P・"ビーズ"・ポップ	VF-84所属のコルセアパイロット。彼の編隊8名のうち生き残ったのはたまたま待機室を離れていたポップのみ。
ドン・ボルチ	VMF-221所属のパイロット。
バイロン・ホワイト	ミッチャー中将の側近の将校。
トマス・マーティン	弾薬員。ストレス解消のため黒人下士官たちと毎晩殴り合いをしていた。
リック・マーブル大尉	VMF-451所属のコルセアパイロット。新型ナパーム弾を搭載して発艦に失敗。死亡。
ジョン・S・マケイン・シニア提督	高速空母任務部隊司令官
ダグラス・A・マッカーサー大将	連合軍総司令官。
ジョージ・マラード	VF-84指揮官。
マーティー・マンジャー	アベンジャーパイロット。
ビリー・ミッチェル	戦前航空戦力の充実を提唱した陸軍将校。
マーク・ミッチャー中将	第58任務部隊指揮官。
バド・ミルホランド	コルセアパイロット。バンカーヒル随一の美男子。安則の爆弾の爆発で機体とともに海中に落下。流出するナパームが炎上し、大やけどを負う。
ジョージ・ライオンズ	アベンジャーパイロット。ターンブルに甲板作業を指示され、待機室から離れていたために、爆弾の直撃を逃れられた。
エディー・ラドクリフ	20ミリ機銃員。
ガス・リード	バンカーヒル格納庫前部担当の将校。
エドワード・リーヒ	機付長。
カーティス・ルメイ少将	焼夷弾による日本本土無差別爆撃を指揮。
デューイ・レイ	アベンジャーパイロット。
レックス・ロード	20ミリ機銃員。
ロビー・ロビンソン	コルセアパイロット。待機室で被災、死亡。

阿山剛男	早稲田大学出身。土浦海軍航空隊時代、小川と共に訓練に励む。
有賀幸作	戦艦大和艦長。沖縄特攻で戦死。
石嶋健三	神風特別攻撃隊第七昭和隊。喜界島に不時着、戦死。
石塚隆三少尉	第七昭和隊ではエンジン不調のため発進取りやめとなる。その後第一神雷爆撃隊で戦死。
市島保男	神風特別攻撃隊第五昭和隊。
伊藤整一中将	第二艦隊司令長官。戦艦大和に座乗し第二艦隊の沖縄特攻を指揮。戦死。
猪口力平参謀	第一航空艦隊参謀。神風特別攻撃隊の編成に立ち会う。「神風特別攻撃隊」を命名。
岩間旭	特攻隊員。慶応大学出身。出撃する小川に短歌を贈る。
宇垣纏中将	第五航空艦隊司令長官。沖縄での特攻作戦を指揮。玉音放送の後、特攻機の出撃を命じ、自身も同乗する。
牛島満中将	沖縄戦で第三二軍を指揮。自決。
大西瀧治郎中将	第一航空艦隊司令長官着任後、栗田艦隊のレイテ湾突入を成功させるため、神風特別攻撃隊の編成を命じる。終戦の翌日、自決。
岡村基春大佐	第三四一航空隊司令。特攻攻撃の採用を進言。
小川清少尉	神風特別攻撃隊第七昭和隊。バンカーヒルに突入、戦死。
小川錦次郎	小川清の父。
小野達夫	早稲田大学で小川清の同期。
小針文秀	特攻隊員。谷田部空での小川の同期。
柏倉繁次郎少尉	神風特別攻撃隊第一昭和隊。
勝村幸治上飛曹	桜花パイロット。岡村基春司令に沖縄のアメリカ軍滑走路への突入を命じられる。
國峰正男	小川清の早稲田大学時代の同級生。
栗田健男中将	レイテ湾の輸送船団攻撃のため戦艦大和以下の第一遊撃部隊を指揮。
黒島亀人少将	軍令部第二部部長に就任後、積極的に特攻攻撃を提唱。
黒野義一等飛行兵曹	神風特別攻撃隊第六昭和隊。
斎藤義次中将	第四三師団長。サイパンで最後の玉砕攻撃を命じた後、自決。
篠原惟則少尉	神風特別攻撃隊第七昭和隊。
貞方弘義少尉	神風特別攻撃隊第二昭和隊。生存。
血海彰一等飛行兵曹	神風特別攻撃隊第七昭和隊。
柴田敬禧中尉	神風特別攻撃隊神雷部隊第十建武隊指揮官。
城英一郎	大西に敵艦へ爆弾を携行して突入する特殊航空隊の創設を進言。
関行男大尉	レイテ沖海戦で神風特別攻撃隊敷島隊を指揮し護衛空母セント・ローに突入、戦死。
高橋三郎	神風特別攻撃隊第七昭和隊。小川の直後に出撃、戦死。
玉井浅一	第二〇一航空隊副長。フィリピンでの最初の特攻隊の志願者を募る。
手塚久四	神風特攻隊員。東京大学出身。小川と同時期に徴兵。
寺岡謹平中将	第一航空艦隊司令長官。ダバオ誤報事件の責を問われ更迭。
富安俊助中尉	神風特別攻撃隊第六筑波隊。エンタープライズに突入。
豊田副武	連合艦隊司令長官。
中島正中佐	マバラカット基地で二〇一空の飛行長として特攻隊を指揮。
長塚隆二	神風特攻隊員。
沼賀靖	小川清の幼なじみ。
根本宏少尉	神風特別攻撃隊第六昭和隊指揮官。
林市造少尉	神風特別攻撃隊第二七生隊。
平林勇作	神風特別攻撃隊第一昭和隊。
福留繁中将	第二航空艦隊司令長官。レイテ沖海戦で、正攻法での攻撃で戦果があがらなかったため、大西の意見に同意して特攻に移行。
淵田美津雄中佐	真珠湾攻撃の飛行隊指揮官。
前田（安則）三作	安則盛三中尉の兄。
松村米蔵少尉	神風特別攻撃隊第一昭和隊。
三浦鑑三大佐	横須賀空司令。硫黄島戦で最初の特攻を命じる。
茂木忠少尉	神風特別攻撃隊第七昭和隊。
森田平太郎大尉	谷田部空での特攻訓練の指導教官。
安則盛三中尉	神風特別攻撃隊第七昭和隊指揮官。バンカーヒルに突入、戦死。
安則政之助	安則盛三の父。
山崎三夫	桜花パイロット。岡村基春司令に沖縄のアメリカ軍滑走路への突入を命じられる。
山本五十六	連合艦隊司令長官。前線視察中に乗機を撃墜され、戦死。
渡辺賢一	谷田部から鹿屋に移って生き残った14名の特攻隊員の1人。
ピストル・ピート	硫黄島戦で正確な砲撃で米軍を苦しめた日本軍砲兵につけられたニックネーム。